



片野貴夫監修グッズ

くるくる

立体ふとまに

クワスタル

お部屋の浄化、または、手軽なヒーリングツールとしてご利用できます。

フトマニ図とは

フトマニ文字（フシデ）を使った古代文献「フトマニ」（128首の和歌集）に添付されていた図形。48文字を、ひとつひとつの音（文字）を「神」としてまつており、宇宙から飛来するエネルギーを図形で表しています。ここには健康長寿の秘密が隠されていました。

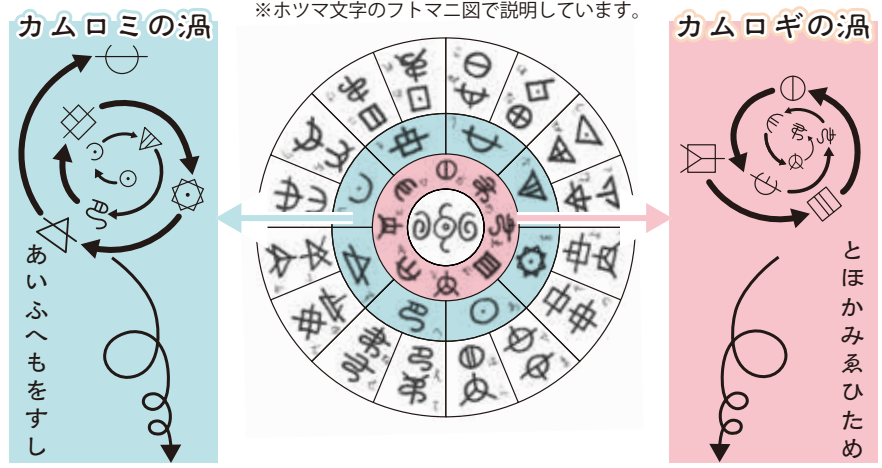
◆中心から2番目の円には「トホカミエヒタメ」の8文字（8神）、3番目の円には「アイフヘモヲスシ」の8文字（8神）、さらに外側の円には、それ以外の32文字（32神）が2文字ずつ配置されています。

◆本来、フトマニは、フトマニ文字で書かれていますが、氣功治療家・古代文字研究家の片野貴夫が実践を重ねてアレンジし、この図形の中に、選りすぐりの神代文字を刻印を刻印しました。

◆くるくる立体ふとまには、フトマニ図を本来の形状どおりに、八角形のクワスタルガラスを使って立体に再現したもので、「トホカミエヒタメ」は左回りに、「アイフヘモヲスシ」は右回りに、螺旋を描きながら存在することが、真上から見ると一目でわかるように作られています。

カムロギ・カムロミとは、太陽から降り注ぐエネルギーで、螺旋を描きながら地球に下りてきます。フトマニ図の真ん中の左右の渦がそれを表しています。

※フトマニ文字のフトマニ図で説明しています。



片野貴夫の解釈により、実際の文献からフトマニ図を90度左に回転させています。

『くるくる立体ふとまに』で体の調整をする基本的な使い方

くるくる立体ふとまにを体の上に置いて、太祝詞を3回（または5回、7回既剛・・・）唱え、触診した箇所の緊張がほぐれます。これが毎日の基本となります。朝、昼、夜と行いましょう。同じ箇所をカムロギ・カムロミうず氣功法と併用します。

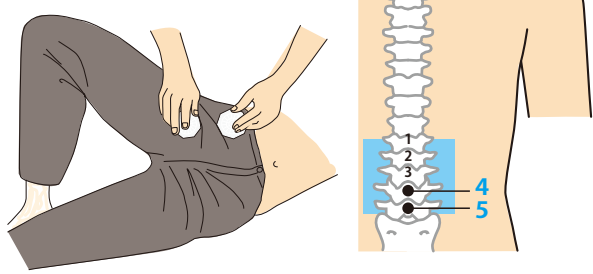
表裏については、くるくる立体ふとまには、文字が浮かんで見えるほうを「天（宇宙）」に向けて使ってください。土下については、真ん中の渦が左右（フトマニ図参照）に位置するように置くのが基本ですが、あまりこだわらなくても構いません。



【その1】腰

〈触診〉腰椎4番・5番の右か左に指が入らず硬くなっている場合（腰痛予備軍）。

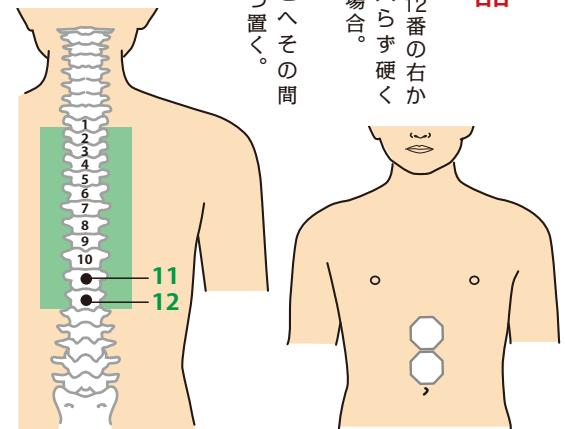
〈原因〉硬くなっているほうは、腸骨が前に倒れることにより、腸骨と腰椎4番・5番につく腸腰靭帯が緊張しています。それが腰痛の原因です。



【その2】消化器

〈触診〉胸椎11番・12番の右か左に指が入らず硬くなっている場合。

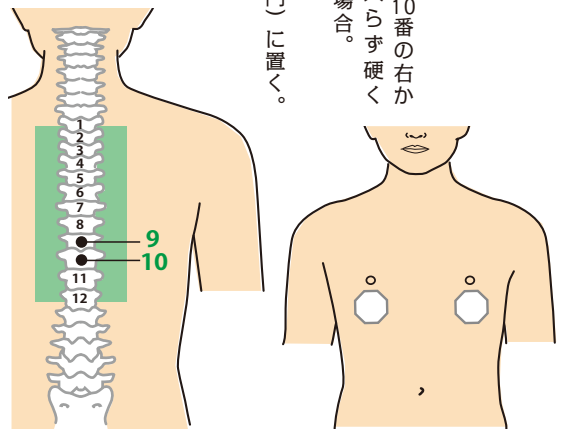
〈置き方〉みぞおちとへその間に、縦に2つ置く。



【その3】肝臓

〈触診〉胸椎9番・10番の右か左に指が入らず硬くなっている場合。

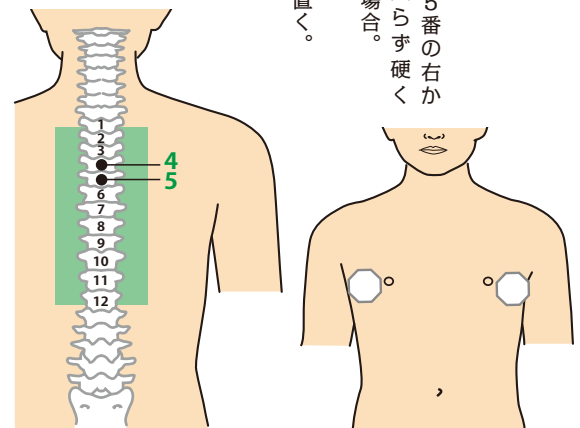
〈置き方〉胸の下（期門）に置く。



【その4】心臓

〈触診〉胸椎4番・5番の右か左に指が入らず硬くなっている場合。

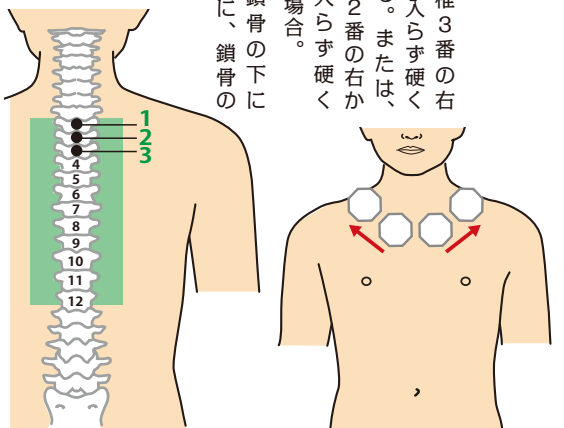
〈置き方〉乳の両側に置く。



【その5】肺

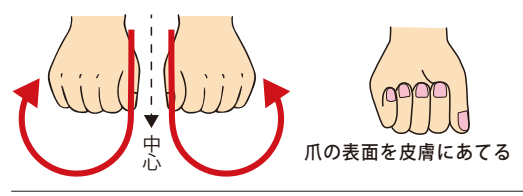
〈触診〉胸椎3番の右か左に指が入らず硬くなっている。または、胸椎1番・2番の右か左に指が入らず硬くなっている場合。

〈置き方〉鎖骨の下に置く。つぎに、鎖骨の隅に置く。



カムロギ・カムロミうず氣功

くるくる立体ふとまにを置いて処置した後、同じ場所に、片野貴夫指導の「カムロギ・カムロミうず氣功」を併用して行ないます。手の指を曲げて、両手の指の爪の表面を皮膚にあて、円を描きながらマツサージします。回し方は「中心で下げて回す」。すなわち、体の中心まで両手を寄せたら、下に下げ、それぞれを左右に広げるようにして、円を描いてくるくる回します。太祝詞を3回唱えながら行います。



太祝詞（ふとのりと）

とこやなむいよみふひとう
 | | | | | | | | | |
 ここのつやなつむいつつみつふと

くるくる 立体ふとまに クワスタル を使って 体を調整する方法。

詳しくはQRコードを参照して下さい

(仮)

『くるくる立体ふとまに』は、氣功治療家&古代文字研究家片野貴夫および一般社団法人古代日本の癒し普及協会が監修したものです。

＜商標登録出願済＞

＜本製品の取り扱い上の注意＞

- ※ 効果については個人差があります。
- ※ 水で洗ったり、水中で使用しないでください。
- ※ 強く叩いたり、落としたりすると、破損の原因になるので、ご注意ください。

(販売元)

一般社団法人古代日本の癒し普及協会

〒271-0051 千葉県松戸市馬橋 301-1 真南風内

URL kodaiiyashi.com